

高 2 G 子	「親は、わたしの自由を奪ってきた。不登校になってから好きなことやれって言われたって、いまさら何をやるの」	<ul style="list-style-type: none"> 話をじっくり聴くことで自分の気持ちを整理できるような支援 生活リズム改善の助言 	『わたしのことを考えていてくれる人もいるんだな、うれしい』『自分のことは自分で考えていこう』
中 3 H 男	「……………」 「(動き出したい、誰か僕をわかってくれる人はいないかな。今の状態をどうにかしたいと思うんだけど…………)」	<ul style="list-style-type: none"> 他の人とどうかかわればいいのか戸惑う本人の気持ちに耳を傾け、じっくり話を聴くことで、本人を真正面から受け止めるかかわり 	『今までの自分がいやだ』『他の人のことが考えられるようになってきた気がする』『お父さん、お母さん、話を聞いて』『話せるかもしれない…………』



—【不登校の子どもの姿】—

- ◎ 自分に対し、能力のないだめな人間というイメージを持ち、自信をなくしている姿
- ◎ 誰かに助けを求めたいのに求められないでいる姿

—【基本的なかかわり】—

- ◎ ありのままの子どもを見つめ、心情を聴こうとすること
- ◎ 今、必要としている支援をしていくこと

—【子どもの変容の姿から】—

- ◎ 子どもはありのままの自分を見つめてくれる人がいれば、自分で動き出すこと
- ◎ 子どもは向上心や可能性をもった存在であること

(2) 事例から見えた学校・家庭でのよいかかわり

《学校でのよかったかかわり》

- 教師は、本人が登校していなくても学級の一員であるという意識をもって本人や家庭と連絡を取り合っている。
- 教師は、学習に不安を感じている子どもには、本人に合った学習の進度、学習の量、学習時間等を提案したり、個別指導したりして、不安を軽くしている。
- 何となく不安を感じている子どもや多人数と接することに不安を感じている子どもには、教室以外の場所を学習の場とすることや時間帯を変えて登校することを教師が提案している。
- 不安が強い子どもや保護者には、専門機関を紹介し、その専門機関と連携を図る中で問題の改善を目指している。

《家庭でのよかったかかわり》

- 登校することに強い不安が見られる子どもには、心身ともにゆっくり休める環境をつくっている。
- 家族が、本人の元気なときもそうでないときも、あなたを見ているという気持ちでかかわっている。
- 子どもにより変化がみられたとき(手伝い、挨拶・返事、外出等)には、たとえそれが些細なことであっても、事実を伝えて積極的に認め励ましている。

3 事例

問題が異なる不登校の3事例を取り上げ、学校・家庭のどのようなかかわりによって子どもがどう変容していったかをみていく。そこから、学校・家庭でのかかわり方の手がかりを探る。